



前進

第5号

10月7日発行

文責：濱田

育てたい力：共感力・探究力・協働力

◎チャリティ・バザーお世話になりました

2学期が始まって早々、9月6日(金)にチャリティ・バザーを実施しました。コロナ禍の時期は募金活動を中心に行いましたが、昨年度からチャリティ・バザーを復活させ、学校総体として「カンボジアに学校を建てる運動」に取り組んでいます。ちなみに、今年度は佐敷小がチャリティ・バザーを始めて27年目に当たります。これだけ継続した取組ができているのは、自分たちの活動の結果が「学校建設」という目に見える形で実現できているからと思います。

1学期から準備を始め、各学級で趣向をこらしたブースを準備してきました。その様子を見て、子供たちのアイデアは素晴らしいなあと感じながら当日を迎えました。たくさんの方が訪れてくださり、子供たちも笑顔で充実した表情でした。またPTAの家庭教育部の方を中心に、ご家庭の余剰

品販売も実施してもらいました。大盛況で、早い時間に多くの物品が売り切れていました。なお、最終的な収益金は140,464円でした。芦北町国際交流協会に寄付をさせていただきます。今回ご支援いただいたすべての方に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

◎やりとげた運動会

チャリティバザーを終えた翌週の9月9日から運動会の練習がスタートしました。応援団の子供たちは夏休みから計画を練り練習してきました。右の写真は体育館で行った結団式の様子です。



当初体育館で行っていた練習でしたが、翌週になってもなかなか気温が下がらず、外での練習の際は水分補給や休憩をしっかりと確保し、子供たちの体調に配慮しながら実施しました。

運動会当日、雨の心配が不要というのは運営する立場からすると大変ありがたいことで、見事な秋晴れの中、運動会が開催できたのはとても嬉しいことでした。各学年、徒走・リレー・表現に精一杯取り組んでくれたと思います。また、練習を積み重ねてきた応援団は見事な演舞でした。今年の運動会も、行事をとおして子供たちが成長する場面はたくさんあることを実感させてくれました。来賓の皆様、保護者の皆様にもたくさんの応援をいただき、本当に感謝しています。



◎芦北支援学校のお友達と交流しました

10月3日(木)に、芦北支援学校の4人の子供たちが来校し、本校3年生の子供たちと交流しました。3年生はこの日を楽しみにしており、どうしたら芦北支援学校のお友達が楽しみながら交流できるのかを考え、しっかりと準備をしてきました。当日は車椅子に座ったままボールを転がせるように段ボールで



傾きを設けたボーリングなど、工夫を凝らした遊びで楽しそうに交流しました。

芦北支援学校の子供たちも最後はグータッチでお別れし、満足そうに学校を後にしました。芦北支援学校の子供たちとの交流は、コロナ禍の時期はできませんでしたが、昨年度から復活しました。子供たちの心の醸成につながる良い機会となっています。

【校長室から】2学期が始まり、あっという間に一月が過ぎました。今年度も折り返しを迎えました。6年生の修学旅行、5年生の水俣に学ぶ肥後っ子教室、4年生の音楽発表会、そして全学年の学習発表会など2学期の行事も盛りだくさんです。「じっくりと教育活動に取り組み、子供たちに力を付ける1年に」の合い言葉で日々取り組んでいるところですが、子供たちの成長を実感できる場面を大切にしていきたいと思います。